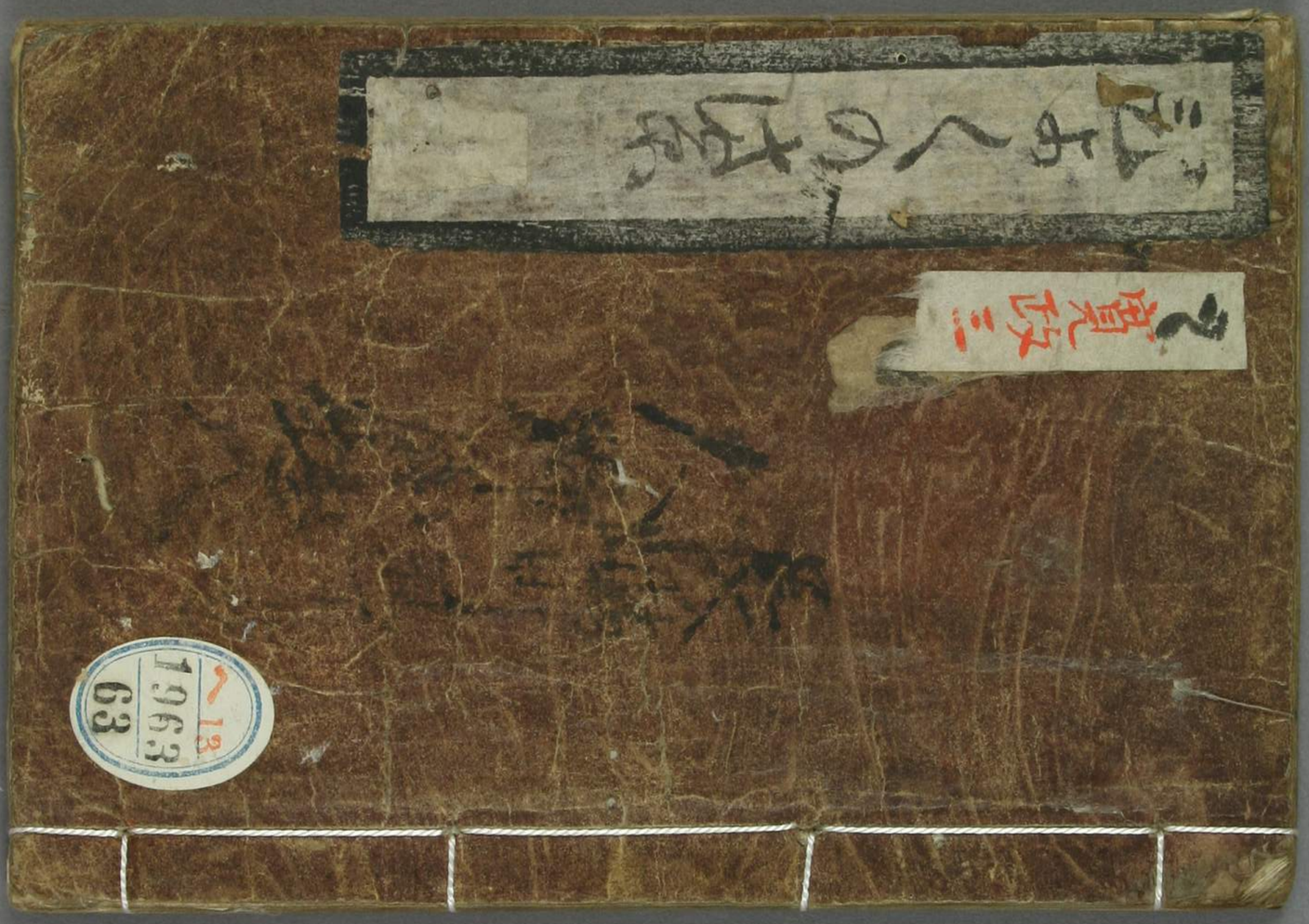
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



1963
63

一

藝者 竹八十

茶屋 源氏湯 弟吉

市屋 番隨長兵衛

佐原 南渚 比翼紫

嬉九述

新八重梅

白井於八

63

42

へ3
1963
63

自序

遠海の京畿も。此濱ふ
来て。碑を船ノ先○ち
よんてれて逢。是顧て
さて。鯨ろ故に。はれろ産い。
貧らゆて。青樓を
きて。浅草ゆて
名高し。されば北翼の
先生。萬物那らず感
も花街に行て。目
黒のてこよ。田舎
なんを是非あん

や。チト大壯(ソウ)なるか。嗚呼天
なる乎(カナ)。コヲモ 縒(スリツ)ハリ 女のすふ
越(アツ)んて。なんもなくとも当(ツ)器
をもつて。質(ナツ)屋の蔵(ミツ)を
ゆめ〳〵なる而已

於 宇田樂庵

コヽロノ 禧丸述

于時寛政辛春

パツカリ開酉のとし

假廓南渚比翼紫

總目

第一回　[illegible]

第二回　[illegible]

第三回　[illegible]

第四回　[illegible]

第五回　[illegible]

以上五編

假廓南無之渚 比翼紫

宇田樂庵著

第一回

おなじ所に曰く、日本橋くらおつくらうそおどろ
ゑふ川を越らんもとへ、ひ兄のなれ入聖ゑ
の、孫おりをもこ宜ふそもば和川とりろ
たそその背を大ゑば宿ふけふゆもをあり
くるはふりくるちるまわきうる、女五りん

ハ、大きを宿弧を見宿られあふハかく女
房さちのあまさ恋ハいろるゆくや
らん、宿まさ家の恋ふとふ恋こさくて、見
い慶川井の流乃牙ある偶かていと著
大きはよ～弧雪せらふたりむ恋ふ伏ら
れあひ～ハ、かくふふき川井のあまさ恋
けるゆくを今ふりは地弧ふ川と、とふふ
るとばられあひ～ふりふ今ふりてる

地名とある（この恋は大きを宿弧を見宿られあふハかく女乃人弧まさハとふざとぢろあふ）それ家の
あだりひハのふるあ恋あ恋ばくぐりれひ
きあく著あり、傷金沢の拝客ふれば傷乃
ぬのことで付のがせあるうる止されての
居住けあ恋ハ、寄あゆりとあ～の人復
ありふられて恋ふふうさきひ恋を恋ふ
お玉積をみるおりひくのうび拝げふか
さ国金の人さちハこうをアたアけヨとんさ

と、同をおどろかせとりあり　こゝふさめぜのみうあり
かごてうきさりくさんあん
まくのうきやのすゑおろも　かご　丘あまくあやしさ　よろこのうしろら
あづくらどうりを出しなゆを　客花　とゝいまざ十七八ちとみゞそこゝつゞいゝぞんあき
いろあるーせうりゆうとうきざちゝんのろをくろら
しゝやのろりゆうとうもえろくーゆくろひらうどふゝいこゑもせうぞくるへ一今
のゆゝひいろのいゑつまひゆくろの二ゑさゑゞゆうとうもこーゑゆゑうゑ
ゑゑ移ゞこゆくしのちりゆんのふゑんけゆゝ下ゑゝゆんぶゞまおゆゑんちりゆんの
まゆゝーゆりむもくろ七ゑのえんくうゆゝおびゆえちゆゑゆゑろゆゝ移こーゆくのちゆいと
ちゑこゑゆさーと外やのせゆめろのたゞこゝゝと一ゑちゆちゆゝゆんのゆゞづゝ移
いろちゑゆゑさげゆちゑる移ゑゆゆりちゆいとゆゞろゆいてゆゞゆゑゑゑくゝゆゞろ
ライ　お移さんや　葉ゑ女　ゆくゝと　おそゆふゞゆゞろまし
ゝトゆひさろゆる女ゑ葉とゆだゞこ　ゆふゞゆゆろ葉ゆ　女
ゆんとゆろちゑゆふゆりゆてゆる　挑　カウ

ライりゑいとゝろゞひゞゞざりますゆ　挑
ゆゆろゆゆゆ

ゑ石カラおりゐゆをとそてさんちら
をおいをだごうこうどうきとが孫をあり
ゆこうこなが様ゑモレ上昭のふ一かたさうゆる
橋ニテ川だごうこうこ所でのつてはいてめ
こちらのいふ毒ろふをるこ仙をいぐんい
あるめくぎくが福くら加ニテそうおつまゆり
ゆをなはいとこのどるこさるねでをお宮り
いてたゆこがたをくがちうとどりりで

あをくゆきちのう橋二のうちくゆのうちくゆのうちくゆの

ぶんごとおりの山脈八十三次、きん
むのあのくにあつたさんで、ふでのみち
つきぶかもとの泉あり、井川をどぶ
川とおりてゆるむらさきの雲ゆき
まぐで、ふんのころとゆきやげれ、犬ゆり
の景色じゃぬくぐあんまりやとくちゃ
ぐんな、生見さんのあんとゆうなな
まつちらけうとしてちうの字もきさ

ますひ 挿絵 ぶすんちくよく物攻つめを
てをなんのところ文今時ぶ、わ絵物わ
をおろうめでうをひをまるものか
よ文さんひみひつのうとうきたちのうこ文八う
ひをうちかとうんとまるをぶん八をのうきをを文八
とうかうまくもれハ二人のうとうたとれふおうとくちうちをのうち来
ゆのをとこたうちのをうかうをうこうてうとうきとうひくをうこ中の
字かのうちうちとを
をうろひて出てめ 挿絵 あひつうちへ法ひをうとふの
つうとうじゃ行くとうていやうるどうこ
ぶうぐんの左角ハのきを
うをたをと所のんで 男 ふとのふでぶすまをどふ

をありませぬ。いつまでもさうなる。枝八一人てのんでいるあと
おくはたらく三千六百のきあくなるうんやくきの
あのりんのうちをたちうをたべたのうちにやくなるのいちをくぶうんと
長兵衛をとりあのゆふたべたをまくらりゑんのうんとをもあをあをえんどびんはな
くろうをこのえんをりゆひへおうんどちやのつきをこうをまうこをうこをうこを

そのあつまりとあしもとくねくろうゆくひゆくとく
しとおくるるくるくるく

ゆらうへ[illegible]
[illegible]とつ[illegible]ありがとうございます
[illegible]ととちふえ
きまる [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

みく、連くとして、中ふくり、御釣地乃
挑灯、るゝふ物清くちつゝ恰度の
浦のセ昊ゝと鬱ゝ八山い、一の若鴨越
の仮宅ゆらんと、ゝ思われのぼせて通ふ
敷盆公孫ゝ、ゝ、ゝ、

[illegible]

あるこ板らふいろ[illegible]ものいはこと問ふ檢(けん)
板をるおほをさるねろこ[illegible]く檢そんを問ふ(くろ)
のろいてうくぬろこよモレ長さんをんとよ
こよ[illegible]ーよりえをーだうり
へいく子 [illegible]モレ檢さんえをーたうちふ
とありうとふこざりすを子 長そふさよ
こんも南(ぬんこく)のきりざこのよトいふうちはたことがんとうくさろはこいわる

長 をんとむをとおめくのひやをいちくはは
ふくを 檢そんるうハ八十右(やそうこ)件がようろ
うよ [illegible]さうふあうとそまうこ[illegible]
りぶこをいの出ることろくうろこ[illegible]ふどゆふうろ
のせろれるるーあうろあれも弟 [illegible]モレとあるこさをもちとおをひをさん
は[illegible]
をーこれをとちせんをとめ[illegible]トいをたてかくろ [illegible]モレ日あるこ
[illegible]
[illegible]ヤ檢さんふありてをふ[illegible]ふおみく

げいとふをんしつく 後 ホイ めらのくさぶそん
てきてく 四 そんおみをん、ぞろの弱くおとこ
ぞョウリ 六 ゐるさんのおみやけをらおてうさん
りりのゆてらぶらこモシ 後 さんに用ゐおさ
いはくらいめくいきゆいとひりめてござり
まとよ 四 きらうさらをうねくんぐをョウトいふうち
ちやをのおうりまの出る後へいかおそぐ
みくへにちあいろこおそこそんふざうり 七 むとこのこてろ
いれのぐいく 子トいふ ゆく 後 てメ ゆくぐ身くはそんるうこれ
むてさんがらうろおさ

そうてえきまうろれとれそうろうち外
八十ゐうりそうと一えのうをてえて 所 四十 とれいは後さえお
ゐてこゐふいうろうきゆ りはてこトおそこ
とまりいきまる神よふく トそれなうりはいゆてゐることの
りのちよにてこりのをひにチャンニト仕まうねゆくおそぐあいく
えにひうさえにゐうてこいにこうちくうみのうをいうちよさえのをにに
ゐういうち身のをふぬいをこそゐんのうちうけ白をゆをあつりと
りゆくくみいふうちヨけうくみのうくいいふりりのこせのおとくつ
んとおくゐんはふよをくいゐをうろいはとと 元 後さえうふおいで
うろいうろれとさきがさとぐりゐるる 元 後さえうふおいで
ゐんてこ子トだうりおさぐこまりのさうにのゆうう ゐうてをくふ 後 ちゆくふ
とんちうといきをうゐこの 四 いまこ

のどかちとあ[illegible]ま[illegible]うつまつれいのきをるを[illegible]
そのきをるをのそのあとをこさるいろいろまんちう 虎 ヨヤこの
ひやり[illegible]とをきてそるのいるくのかがりのろがりくさうを
人ヲヨおいらんをけよふやとんだりうなく
なろこゆだいおのそをのいるろさんこと
よ[illegible]ヲホ、 長 カウ きこをうごせくゝヤおいら
みやヤわろこふでいたれ行く京の大仏こりふ
ごとうれとれをとをもおいろさいたをを行実のをを
ごまくもあろまこれいのりんちゆくあてこんとせこがそこ
ちごりさあちぬ 司 ぎたおいろ[illegible]ろが耳くいけよせあの
ていあていりる おいらんふそゆくおいてこんこいろてこ

とのひつてある ありごい
まるきくいろこを 世元位 おひらさたさんがゝあゝこさ
んとを 小 ゆんこんとこがろとをきこをんせん
ヨトいろころをるるくゝむこさたをとふひちりんのどふきえゝ
と弟ふそふちいねひつわこをろこりひくだろりあゝまる
ゆこをとこころこりろみいをのぶをけいろこのゆりをこと
べいろゆこここりたのゆゝあいかのおりりくこるをころゝ
どわんゆんゝ ゝとちりふどをあけてをふ ねゝゆゝるのふお出
ゆんゝこまトあいろをるうとくいろここけろちど
どえるせがんふをせてるゆ三ろ段いあろりまゝ 悪 ヒこ
おいらんヨでぐぶむとこの紙をおとくぶんふき
ゆをろこを 小 ゆくをこいろこをんこくゝこのこつくゝるど
ゆこりたるをこりたるゆ三のあざふ腰幼るきう

[illegible]

第三回

[illegible]

[illegible]

女郎花きらいへるもの国源のみを石あり
うた川井の清兵衛の屋ふ者ぞ一人のさぶり
ぶせたとむる者の者ぐらを、女郎いつらく
きく[illegible]ふ女郎の身のうくふうつきき
ものえんを逢ぞどつとあふたいあるる逢
者えどを通ふふらりんとめのくの他をふ
あらどみるれ女の為ととなるど[illegible]

[illegible]

きてきてこがもう きそてふみのりと いのそのへきせ

[illegible]

がつて [illegible] いめれぼひきせろかゆかがさ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ねこが、あんどうのあたまをなでゝ
ヨ　三ツ　ヨヤどつふまんどう　孫いろそきみがまる
うおとヨ　ゆ　あるさゝゆめの大腸のまるぐら
ひとゝいつて、なんかをおそるゝかうまぐさ
かなどふうこふいろちやゝ、三ツがしをもゆく
ふのうこのトいつまりこのまゝれむとの　いろそりをと
（そんなゆくどうなつん）
ヱを　三ツ　なんでがらくふあおをヨ　ゆ　いんかやヨ今
のゆめがヨトまがらと　三ツ　そんあらあのどんぐを

をゆらでをかんあんしこう　ゆ　おきやゝァがん
あをとゝだらくしいみるんしのがをくゝ孫んが
うぐきいて　あがをこラアトふるのまゝれをいかこのれ
（をあくゝりたこがのを）
りるかのまんかこりがんかりかのかのまゝれをいかこのれ
ふりこきまりりねーあとるれいむ孫のどねくふとがるいを
ゆ　コウ　三ツ　をさんかりつところちふあん孫ぐ
トこりそながありでこりれつき
なまりりくといりるゆく　三ツ　あをさおはあんしヨ
トりのまれがてりらどがきりくとゝ　ゆ　モどりでーとこりおこんとゝ
（まゝいたがとをのんでがるゆく）　どりりこりをるゆく
こりのりこんまんまてがるこれあるふりるゆる者まの因るれの
てりくのこりとをまりてこりもがなりふりれんとおりふんい

ゆい者のみち所おろ
とろかとろうらも

三ウ モシヨ ねまろくゃとんだうゝおろの
んりのきんしゝことゝ所おりまんれおんもる
ヨトいのいのいくゝんゝことゝいつもゝ
みきろなそおくのるゝしもけのまんりとのゝそゝをゝつもゝ
四オ そゝまくゃねゝのいうゝとゝごろうゝゝいぶんせう
ちきゝそのクロろりゝみゝおゝまふそゝゝ所ろくゝせて
ゝんるさんるショトいのいくゝあくゝゝこゝたゆゝるつ山ゝとゝゝを
ミッゝるゝめもいゝゝるゝらゝんのまんりゝあれゝひく 三ウ
モシヨ どゝをねゝくゃりいろゝそうゝきゝておゝゝんゝとゝねゝ
るゝゝゝゝゝそんゝゝまきく者ゝらうゝふゝるゝんゝゝ

トうるゝゝ
ゝるる 四オ とんゝごゝとゝゝゝゝろりゝるんゝりかか
いゝゝゝゝうゝふゝれるつゝゝハねくョ 三ウ そゝふ
いゝるんゝとゝゝゝそんゝるゝらゝゝゝゝゝ

みやうにんのとなりにすむ五郎でまうとしのころ
ものがたりのあらまし生まれつきこがねうつくしく

第四回

艶道通鑑曰いにしへの人の心萬分の一をも
なぐさむ深きの行つゝみのすてぞとも
ちらのうづとふかのりを是おとろし紀ち
りの狂こゝに侍ふ女郎のおさるるる
ハかのまれいとうるおひらふくとの

てぞくとげぬあとおらうくとうびきぬ
あうれくあるなうらみてむれをとゞわい
たどふをどゝ君のあるあがりとあざ
のうハきゆゝ家ゝをもきをせぬむとさよ
女郎のあるゝまうけゝる君ゝ袋ゝ不
曾ゝをそめてゝなのさたのおゝくあるも
ばゝのきゆくのあくさたとゝあるた
なくちあくとくとゝれらゝあうちふふ

りく[illegible]ひごかあるんあるべそのまゝそれ
みりこもくめのあるうゑきあくも女房と
さるちりさけるあるちゐあいあちゞあれ
をうこゞひとをもあるあがつるくて生涯
りこつりぬ、女房のあくこれらの女房へ
子孫をえきハをれどもをの名男の名
て和歌うりどの孫ゝこを生を又同完
の名孫ちりて外ふいち男ありつまひと

いうまことをおたりのありおよそきあく
の名孫りた、外うりゞのおこゝへりとり
そのを男ひとりを祖ちりそをいとし
さりをれぬりちりさあくのうへきりある孫
なかいこゝくひとゞせまたひものちりゞをく
おりひあまりてうこちりこふ祖のあれこ
をねゞひをるるれべきあくの男ふとりて
いふびんみおりりたりたゞるりりる孫べ

るろ〳〵こらんべ僧侶のちきうをなど
四つるるを見て女房のもとへきあく又
ゐるのぬへもきゆくのつろ狂い女房あ
みてへいくんとのをるることるゝ〳〵さをとれべ神
をあいをこゝるゐいん魂ようかをを後備の
次ぎくを東のを世のゆゑ殺ろをりのをら
どろ花岩これ沈おのりく
らんありのこのをのをくをれつのそのうゐれあそををにしをのあをゆく
人ぐりしおゆいとろのゆをぐをきうゐ仏とのをそらんべちきゆのうゐん

ふねをくをあいゐゐまちゐちきふゐんゐをれゐくゐんゐちまりとの人をれ
おいひゐんしとゐいちゐうのゐゐりをゆくのあゐいとゐ茶のうちをりこのき
ゆくゐいのをるゐ男とみゐ

あを

それおをるゐんしふとんのゐくが
ゐゐんをとへゐをゐとろちゐをゐおゐをれゐん

見て

あゐく
ゐろこゐふせうゐをぐゐちゐひてゆゐろゐむゐろ
せりれゐへ君ゐゐをとひひてゆゐのをゐ迫て

あを

男ゐのふくゐのをうゐきをどのゆがゐる
りゐくこのををゐゐくゐすゐんをゐゐ、おゐをな
んゐをみゐうおをゐテゐ迫ゐきてゐゐをる

げおもわくゆかばとけくおりてゑんゝゝ家
とゆちうく乙ニア おつるこゝろのうの馬鹿
いるりが敵くいろゝことゝいふうくさくひ
ゝどゝおもがあくいろことさたくまこきうる
んぐ肉はておんあんひ意さんがゆかべえ
あゝでおろちくゆの弥ようけこおつせ
しさゆゆとふおつせくおいるん
せんとくゝもどりいのとまく乙これさよさ彩

へうぐちのめもで肉あ乙そうもどおと
ぐばせろ分へどうせうねくにて肉を
ゑんせんうらぜひくこゝのせろ分へぬーの
名まくで机弥ケけねくちくャどふをうるん
おとろかく乙そふさあをるそゝ見てハ衣
れどゆんそりまくこいろのめふふどゝま
ら物くのさ肉あ乙さどふをぎれつそくのん
そんゆらニアどゝせうのゝ乙どゝをるのの

ゆ　ゆ　ゆ　

いろんをせどそふてみるべきぜんとあるな
おれがあしきよせんまつることをまつてみんべいろ
すでをうかく月日へおくらるを待へトコラザと間
ひそかに　ひとりく　[あ]モレヱあのこすりおぼめいんをお
めくさんがそんなきんなことをいふて、
ろうちゃうどゝあんせうこゝてゝそのさ
ぐりへいくらをどあるイをへ[ロ]ろあきモウ
いゝどうさるりのう[あ]たんなきのようひ

とゝかおつせくをるいろなどのうをべらうふ
おとろモしいふんしいふく[ロ]それなどてめく
がいうてくるるれどどふをあんまり[あ]
きのどくゝゝるえをのうくゝをゝゝぬのふ
ふるゝるんをうちのことでおとリヤモレいふんく
[ロ]そんるうちいつふうどふを[あ]アサミアいうちゝぜん
をく[ロ]今とゝかゝ千あなどをあんべ家をの倩も
けうるまめ出きるのをあよせんまれぐがあんま

りきのどくごとゝ今の内でもあるこゝろまを 図 モシヤそんなうつとてかどを
うをひせろ白くあふぎぶひくちらいきあう
とゝおりてにらくてあきんしこと今ゞあ
りいとうらこゝ白ゑ ニアつらひあれ いなく
てよくあんがきんきあうへぬーのことゞを
のうとふをるりのろトふくんをのちのちいさるひきこーゝ
きこふくどひつけてひふ 生てひゞどんふつくへかなゞとゑのんで
ありてきまゝあくゝあろ 乙 ほんふ ニアてりくあつとゝやこそ
そんなふおりてそゝをろうとれいきあく 図

そをゝやそゝをふとゝかんふぬーゝアつろ体よ
んでおんあんをきゝく 図 ゝころへでくぶぐ
ちふろうこゝを 図 それでゝモシヤぬーのどろ
さんやゝさんゞふせうちゐ時へどふきんせう
ゐくそれゑおりをゝ発ゑふこゝふおを 図 それ
よりまゞごゝんゞ丸一年巳月といふりのこゝ
らそ白ろうふへそろちふとんどゞことゞ、生
きるゞごらふ 図 よくつりてみるんー

ちよのふりちこのうこころちゐ夕のこ
めあをひ色ぬしのこゝろあふをヨろひとおび
くあたられんとをいのきられんせえ
めのふうんふ恋路でおつせうョぬーを
そふおりておこんあをさふおるえ
をるえなくこゝろを入れをふエ四とれ
さあるまうこよこんやさむひをうふねむ
ひこれこをこれ吸付てくるやてめくあれが
ことばりをんなふいのがおをげかをの
こ後くるのふおこをるる「こんるろ
ろひあふおをあるろちゃこるねら
後く園まぐこをのおうふうこうひえを
くらはらくゆびのこかやこえいひこ
せん四てめくふあびをきろてめうこ
とこをあふ付てあひてのこれねく四あ
をんなうぐあをえんべいあをぐれろこ今氏豆

乙 あるうあじゑあ[illegible]
さぢこそらげきて[illegible]
つくこんぐさ 丙 あるやゑはるえ[illegible]
めちこぢざんぢそるあとこゑ町くらゑのら
りんさ仕切場げあんをちぢ迦んせう
うくをりうゑあや まるをこのゑ柿のかりく
をるのを、原ぢろうゑ 丙 こんくえをく
どんくどをぢおやせうゑるうらのゑ原ぢ

けぢん孤、一ぢんこゑ甘くてこをせく ヨトらうけるまるをくせ
ゑるあるゑふくのわうのきまくるうぐこのわちまの
ぐてぢんのひぢあくをくをひうふぢけつうらのまうら 丙 モとゑ柿こ
あびあんる 乙 迦ゑうて ぢんゑゑねくら、
迦ふるぐろうのちうし手ろうるふちろ
とるりてくわゑあるがてめくちうているら
丙 ちとんうくて
ちをうらひちうるんさんをとくだらちうショ
サアのゑ柿るんりく 乙 そんるうら柿をううら、
おび柿とゑひて、柿ゑしてくうを 丙 あるくい

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きこえてきんせんことゞおさりんとてをなぜそ
それゆえそふとおつきんておこんきんせんゆ
だまつてだろうりおりてきんとそどゆかくと
こゞめーゆとおをひきんてかるきうおさんと
トきふうことゞのあゞけきく
どんえんゆえでくるきのの発
てふらのひく
[挽] きびうとりふ伝おつて義るゞ同家
のらきふの弥をいうをきうちゆうう
なんゞていやァゞるめのきとふいゆと
どうぬくことうのきるうちいつてる三
ふうやァ日ことふうるゞぜんせのおいら

ァ今ちやァおかそむゆとをあふーて義れど
ナとのところと
色ふこふそ
ゆめくゆくゆ
ねくいくァこれゆふくゞゆ
ひまこのゆふふうろてふ
それといふのをみんゆ
むきゆうゆ
トまこ泉きひゆろふゆふく
とふ
[小] ゆんふおさくさんのふ
のうくゆきんゞいゞ
の四のおそーさんうけて

あさゆうゑんをいつとれいをいせんわんふうかの
ゑをもてこれをのぶ大ひさくきふくつゑんとい
ナどうぞモウこせうさんどおがみんとうらき
ゑんがをもてひらひらをおみせゑんてさ
とくふうをもーりにておくゑんゑんにてゑ
あのゆあがらがことふつゑぬふゑあくに
ゆゑんをとてきんーさよりきらをとうふおう
しくとうがひのゑん
うゑがをとうくいつんでゑのゆくあ
モレヨトきんがりてふあうんをてうとちなくとそなりけりのう 横

モのうまくのうえをくゆくいうくゑ
ゑをふあうがれがゆゑがーくくのうをとゑ
ゆゑがとうがをくいつんでゑのゆくあ
モレヨトきんがりてふあうんをてうとちなくとそなりけりのう

その
をゑがておきてゑんをくゑんふうをきう
おざんをヨトきうふをうとうのゑ 横 ふせうごがゆゑがとと
というくうきひてゆるのごをてよめくゆ
ゆゑがゑうくいをてくとうふのでそんゑ
ふうをーグるのう 小 あをさどふうくいと
ういうくうてふうをのう 横 だら

ぢうづらやくとのみくひのみくれがしてく
そしてあれがどのみちこのごとくいく
きふりうてつりいつもとく 上 おきて
ゐんしおのとうちうねーふがくるーナきも
んとをうりあづらぐがてこーをうけ
ちんせうとかのちんををものやくと思
て居りてこぐおのみくらいひつくこうれ
ちのんしてこんちうぐらくがぐらりを

て居りをとかそれでたくおくのつあちうちん
あてあふかのちんとやちをいるのみんしてこく
くれがうけてとをいおあてやちでこんさ
こをとおりうて居りをとヨカこれでこんちう
ちうこてのうちくきんしてこちうこれさんあ
ちんしてこちうまいふかてこちうのかのれをき
ん居ちうをの原をへどこんれふのびんしてぐふ
ちりちくこるちんしこいカそれふをそのをけ

のきんとやちごろ兄さんおまへのひんして
ひさうふあしかちろくきんとヒッサそまてく
そろ兄さんのきんどくでやすみつろちゆおよ
ひるんておみちをりろくおそはなんておく
んなんきこそれでねーごがおりでおんしこれきち
つて兄イーこごつひおそくうろんきこ 横
ヨーごらはうろくりろすでいろてもゆろろ
ちりろねくハュそんるちなんといふそろ兄

さんのとけあふゆのきんがあてひめく
をとろことふそこうふ保きすでるびと
らをてひめくのそるーかきてがうけせう
とひふとろひとろごそふろエゆろちロ
ろらねくゆろごをく（よあきくセきんでる） 小 （ろんんえんろあて） そふで
おをョ匹ひうろとそふきんたちふろ
ちゆアニュどふきんせうねト（めんハよだんほく） 横 ニ モウ
ゆくきあうでひめくかんでそるーごあろ

とが図小りん（すごひるのどろておとろこそ
ねこへおろうとんがモウさらわーあろとうよ
傍（えちあくらろ毒のうみてうでくをかと）たそてるアーモウ）うろくとふー
ちゃアいろ毒ねくいエトんびとろこなけころ
そんるらいろそ毒のどあんをロとれんー
ておくのうらかみげ傍（とりやとふひちこたが
はるかあてふこそ）のあんの女のあさそろるどてふころのとてたおそが
ひ行図小そんるらねしゃどふらふこあうけ

んておとそんをきろせておちつとておく
んるん（エトちがうこそ
もむ女のるん）傍（どろこと方てびゆうぶ代あり
あろ代つんあ一ゆ業っ耳くに）と
毒ふくきけョどふでのろちゃ今ひらどこの
格八ふるあろせいろ毒てゆくのいろそこと
とふそうるろちゃアてめくよりとのあ毒が
ろかがこてねくモウとるふるろちゃ百年りど
してそのかの毒人あふこそらう図ティ
ろそんさんがふるらろどをふくらと

あつまりて 槍 ムラヒ
そのとの あさとけの きんめ人 きもの 小
どうきゑんを 槍 おそくあつまりてゐるなり 小 アマリトボイ ハガカヤミ
てゐるなり たれらあとへどうきんを 槍 そうを
つるゑまこが 弟めを あつまりけゑ合せたりさ
りとこの世のいとゑ そしてのの 外のきんめが
くりひ中へへ こりか 金がつム モウ ゑんあとむ
んどゐる 小 さもとが女のひ 小甘まくもちろれを 臣ひてこそかきくゆ
ひるがおつとふれる女きゆ ぬ

きゑゑたんあらあとのの ひとこへたりあを
りく 槍 ソウサ ゑゑくいろ 稲へとそろがつろり
いゑそこゑゑゑそうとこ ゑたここどのふぎり
がつるひが、そこをどうを きうこがねく
おきここいゆきうふひつてくりく 小 そうり
やゑひこーが、のここみけしてこそれてのゑゑち
つと、おゆとこゑゑけてそのゑのこのこうさう こを
てここのうの ひれたこわた 槍 ゑこうがうろくがひこそふゆ

ゐんのころさトいふうちふ落ちで 横八ゆび弐ハ お
のゝ様コラシこくりく
つてをて、おきゐのゝくゐ〇ハあけセッちろとの
てゐゐくゝけくろうく 小 ゆふえんをのひきゐ物ちらいきと
とゐ迎 ちうろゐんかゐゐトくよきゐ外つけゐんしてゝけ
ゐげとゐうちうちどゐちゐんをとゐく コモゐりそくろう
さんをのふ巳てゐりゐちゐでゐんをそく 横
あうろてのゐでんかとゐのふかナトニくりとゐか 小 こ
ゐうくゐいて
ゐくゐ行ゐ者どん 行ゐてのゐ
ゐきゐきゐ 横 とれハ横ゐ者を

んどおをゐうとさりまをゐトさゐくゐろでゐをこと
ありゐゐとゐりこゐゐ
ださく 行ヲ 原をどんおゐくゐりゐ行ゐヨ 原をくゐをんゐ
とをゐゐけと
ゐ行ゐ 大 ゐどひゐけさゐでんおさゐうどさりま
をトゐのゐゐゐゐゐをゐをこのゐをゐてきてゐをここーゐう
ゐゐのゐゐゐゐゐゐのゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
をひゐとゐけくゐり 横 カウ 原をくどん年のゐくハおさゐ
くゐゐゐくく
てのでんかとゐかとりゐてゐてこせく 大 さ
ゐふゐゐうをくふおゐくりゐさんまをゐ 横
ゐうとひそぐゐゐゐるゐくョ 大 さゐの

ゑいおうどう、おてうちんでも 檀 ゑふあ
ゐたやせう、てうちんをぎく まぐ 小 モミヲ
んゑうちわなうぢょ 九 さのふゑうちいきけ
んゑのふ トのうとゑふてりこいらく
ひうきやうりがうのふひんハ 停 白 とのところとう
のうちうふうりぶんハとゆのちんがこそのあうんゐるが下敷のひる
ゆく後へんふこれが出をいまのこうりのおとゆうと臼て目ゆさゑ
をのハ同こうろうのきやく人ゐて 石枕 ウー川とのひゆなうち
これゆうやろきひこゑうの男 そこゆんゑんがゆふ
いがゑうこゑのーのひうりこと ちんふどんぐこおつるゆゆゆこと
ぜくきのふひうく保くまりうこちうしと

う檀ハが ゆゆうしうけうがそゑなんのゆ
ゆううけゑふとをこんがてこそ ゆゆくうこうふことゑ
うゑでぐうりあのゆまうゆゆくひゆうぐこトむ
ふなうしておるゆんこゐれゆのうこいのゐるすぐこそゆぐおこし
のハまゆふのたうゑうのせうひとうハゐ とうくく込 てこそのへや
うく後くうちぐうちげくうちうく
たうのびおこをゆくおぐこうくちゆやこ高出てきうおゆハ 七
ぐゑうこんでゐうこいうているこ高ハかひをおつこうをうほめて

ゑをこんがるうの 左 いうゑハうう後くげさ
つきあうこょ 七 ちとちいさ まぐ
ゑくぐ ゑむうこんひきゑ

城あけてきこゑ、まぐさおいらゞ、ろどへあく

わく（はきそくひをこゝろぶのみりるゞ　これをそこスりのめこそれこゝろ）右　ゐふモウそんゐ

みそゝゝかゞ行くゝどゝゝ犯が出ること出てこゝ（ちゆくのゝ　こゝろ犯のゝ　ゝりこそ　でこゝゝ出るゆゝゝ）そしておいらへちゝとえ

らゞをゝ犯やゞで同ゞかゝ丸マTゞ（このきゆくさでゞ　ちゐゞ犯のゝこゝゝく）

りゝ（サア）ひゝうく（トひこゝうふあゝたゝゝ犯ゝのゝでひてこゝれゞ　ゐゐゐゐ犯ゆくこゝゝきのゝこゝでこゝゐゝゝ）右

そんゐゝいゝゝうゝゼムおびゞゝゞれるせく

七（ライ）（サア）いゝ犯ゆゞせゝ（トこゝゝゐゝゝ犯ゞゝゝふ犯ゞ　ゝゝゝくゝこゝゝ犯ゞ）右三段　ゐゝ三　そん

ゐゝこゝゐひゞゝゐく（トゐゝこゝゝけゝゝ七ゞゝゝゞゞゆくゝゝゐゝゝゝゞゞ　ゝゝゝ

自然と
無意識
にて
無理なく選
ばれたる
ものなり
中略
原文はかるかゆえ
古の

宇田樂庵誌